

暑中お見舞い申し上げます。



梅雨明け宣言は、まだ先だと思いますが、蒸し暑くなりました。晴れると真夏の暑さです。今年の夏も暑さが厳しいと言われているとか……くれぐれも熱中症には気を付けましょう。

ここ最近の“新たな発見”とでも申しましょうか、思ったことを2つ、この場をお借りして分かち合わせていただきます。

1つは、第1次産業の重要性。たまたま、畑仕事と牧場訪問の機会を得ました。畑仕事というのは、幼稚園の秋の芋ほりのための苗植え作業。苗を植えるための畝を整えるために、鋤を使って作業しましたが、まあ、この作業のキツイこと、キツイこと。畑仕事もいいトレーニングになりますね。

「畑仕事を続けていらっしゃる高齢者の方々は、認知症になりにくい」ということを、どこかで聞いた記憶がありますが、納得。適度に畑仕事に従事することは、きっと心身の健康に有益ですね。

また、限られた条件の中で、工夫を重ねながら牧場経営をされている方のご苦勞を垣間見させてもらいました。牛舎の中も見せてもらいました。もちろん、経営者の必死の工夫によって、牛たちにとってはそれなりに住みやすい環境かもしれませんが、少なくとも私たち人間にとっては快適とは言えな



い、独特の香りのする牛舎の中。こんなところでイエス様は生まれたんですよねえ。すごいことですよ、神様のなさり方は。

たくさんの牛たちのお世話に明け暮れる作業です。毎日、牛たちと向き合ってお仕事される……その苦勞を思うと、私なんか気が遠くなりそうです。すごいお仕事ですね！

私たちの命を直接支える農業の大変さと尊さが理解できました。私個人の勝手な憶測ですが、“農業の復権”は、国レベルの大切な問題かなと思うのです。



2つめは、この夏のサマーキャンプについてなんですが、テーマは「いつも喜んでいなさい」(1テサ5章16)。小倉と熊本ゆかりの殉教者、加賀山隼人、小笠原玄也・みや夫妻についてプレゼンする役目を仰せつかっています。改めて彼らの生涯を知り、自分の信仰を問い直している感じです。

素直な疑問は「殉教者たちが体験した数々の苦難の中で、なぜ喜べるの？」という思い。自分でも明確に理解しているわけではありませんが、キリストの死と復活が一つのセットであるように、本当の喜びは、苦難・困難を抜きにしてあり得ないのかもしれない。

井手公平